

新用途に合わせた薬剤紹介

九州営業所が講習会

オーシカ

オーシカ(東京都)九州営業所(福岡県久留米市、梶原茂所長)は17日、久留米市内で2015年度接着技術講習会を開いた。当日は、塗料の販売店や集材メーカーなど70人が参加した。

まず、塩野公教(オーシカ中央研究所技術主任)が「中、大規模木造建築用接着剤について」、中井聡(同研究所主任研究員)が「木材の化学処理について」をテーマに話した。

塩野氏は同社薬剤として難燃薬剤試作品「TXI495」、GIR用接着剤「オーシカデザイン」(エポキシ

梶原所長は「木材業界でCLTは今後、ますます重要になる」と話した



樹脂系)、CLT用接着剤「ディアノール」(レゾルシノール樹脂系)、「鹿印ピーアイボンド」(水性高分子イソシアネート系)、「オーシカデザイン」

(ウレタン樹脂系)を挙げた。それぞれの性能や使用時の注意点を説明した。

中井氏は、木材の化学処理による性能改善は絶対的なものではないと説明した。「改質処理木材を有効利用するためには、薬剤の性能や使用環境を見定め、適切な管理をしたうえで使う必要がある」と話した。

特別講演では、村田

忠山(佐木木材CLT部長)が「CLTの今と未来」をテーマに話した。設計法や基準強度の確立、CLTの特性に合った接合部の開発、実証建物の不足などを現在の課題とした。また省力化や工期短縮に貢献でき、中高層木造建築も実現できる。軸組・2×4・RC造などの組み合わせにより、建築物の新たな可能性を開く工夫だと説明した。